

## 7. 森の科学館および野外展示概要（平成24年3月末現在）

科学館1階（多摩森林科学園担当展示）

種 類	内 容
展 示 物	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎タネの引き出し</li> <li>◎ムササビの食痕</li> <li>◎フンや食痕で分かる動物</li> <li>◎木材クイズ（木製品）</li> <li>◎ジオラマ</li> <li>◎大正時代・海外のサクラの文献</li> <li>◎昆虫採集用トラップ</li> <li>◎足あとでわかる動物</li> <li>◎木質バイオマス関連 （ペレットストーブ、ペレット）</li> <li>◎土壌動物とその働き</li> </ul>
パソコン図鑑	◎サクラ情報検索システム
映 像 装 置	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎多摩森林科学園紹介ビデオ</li> <li>◎園内の野生動物</li> <li>◎大型ディスプレイ4台（樹木、昆虫、動物、環境教育各コーナー1台）</li> <li>◎ムササビの親子</li> </ul>
標 本	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎スギの古木</li> <li>◎ダグラスファーの巨木</li> <li>◎モミの年輪板</li> <li>◎ヒノキの年輪板</li> <li>◎材鑑：9種類</li> <li>◎腊葉標本：9種類</li> <li>◎日本で最初に製作された集成材</li> <li>◎球果標本：14種類</li> <li>◎サクラの花の亚克力標本</li> <li>◎カマキリ他昆虫の標本：121種類</li> <li>◎キノコの標本：16種類</li> <li>◎両生類・爬虫類の液浸標本 ：14種類</li> <li>◎アナグマ（剥製）</li> <li>◎タヌキ（剥製）</li> <li>◎ノウサギ（剥製）</li> <li>◎ニホンリス（剥製）</li> <li>◎アカネズミ（剥製）</li> <li>◎イエコウモリ（剥製）</li> <li>◎アライグマ（剥製）</li> <li>◎ソウシチョウ（剥製）</li> <li>◎ガビチョウ</li> <li>◎アオバト</li> <li>◎カワセミ（剥製）：2体</li> <li>◎カルガモ（剥製）：2体</li> <li>◎クロジ（剥製）</li> <li>◎キビタキ（剥製）</li> <li>◎シジュウカラ（剥製）</li> <li>◎ハクビシン（剥製）</li> <li>◎トラツグミ（剥製）</li> <li>◎アズマモグラ（剥製）</li> <li>◎テン（剥製）</li> </ul>
写 真	◎航空写真
解説パネル	<p>ようこそ 多摩の森へ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎景観のうつりかわり</li> <li>◎地形図でみる多摩森林科学園周辺の変化・空中写真でみる多摩森林科学園周辺の変化</li> <li>◎代表的な日本の森林</li> <li>◎植物の標本</li> <li>◎科学園のキノコ</li> <li>◎土壌動物とその働き</li> <li>◎科学園の昆虫相</li> </ul>

種 類	内 容
	<p>◎科学園のチョウ ◎昆虫調査用トラップ ◎ムササビと里山の変遷  ◎木質ペレット ◎多摩森林科学園での森林教育 ◎私はだれでしょう？  ◎一身近な木，木製品を見ようー  ようこそ サクラ保存林へ  ◎サクラとは ◎野生のサクラ ◎サクラの栽培品種の成り立ち ◎最古の栽培品種 ◎江戸時代の桜 ◎明治・大正時代の桜 ー荒川堤ー ◎昭和時代以降の桜 ◎新しいサクラの看板、読み方のコツ ◎サクラ保存林で見る東北の桜 ◎東北・夢の桜街道 ～八十八カ所巡り～ ◎サクラの樹皮と樺細工  ◎サクラの栽培品種 その1 伝統を正しく引き継いで、未来に ◎その2 良好な例：名前と遺伝子型が一致 ◎その3 1つの名前の中にいくつもの遺伝子型！？ ◎その4 別の名前なのに遺伝子型が同じ！？ ◎問い合わせの多いサクラの病気 ◎フェロモンを使ってサクラの害虫退治◎サクラ保存林の役割 ◎森林総合研究所の桜前線速報 気候変動とサクラの開花</p>
図 書 コー ナ	◎森林・林業関係図書：約140冊

科学館2階（森林総合研究所（つくば）担当展示）

種 類	内 容
展 示 物	<p>◎いろいろな木材の重さ ◎きのこの役割  ◎けものの毛 ◎木から出る音  ◎はたらく林業機械 ◎国ごと Co2排出量比較  ◎木材から新素材を作る ◎いろいろな木質材料</p>
映 像 装 置	<p>◎人工土石流実験  ◎はたらく林業機械</p>
標 本	<p>◎倒木をリサイクルする昆虫：32種類 ◎花粉を運ぶ昆虫たち：55種類  ◎落葉広葉樹のカミキリ：18種類 ◎スズメバチ類：6種類  ◎イノシシ（骨格標本） ◎ハクビシン（骨格標本）  ◎アナグマ（骨格標本） ◎小笠原のカミキリムシ・カタツムリ</p>
解説パネル	<p>小笠原の自然  ◎森林総合研究所の小笠原研究 ◎小笠原とその生きもの ◎小笠原の昆虫とグリーンアノール ◎小笠原のカタツムリとリクウズムシ  ◎小笠原の外来植物 アカギ ◎クマネズミの根絶とウグイスの復活</p>

種 類	内 容
	<p>東日本大震災</p> <p>◎東日本大震災への研究対応 ◎森林の放射性物質の分布</p> <p>◎森林内の除染試験 ◎スギ雄花の放射能汚染 ◎津波による海岸防災林の被災と被害軽減効果</p> <p>生物多様性</p> <p>◎多様な生物はいろいろな役に立っている ◎森に住む菌類の働き</p> <p>◎森の恵み 国土と水を守る</p> <p>森林資源の活用</p> <p>◎木を余すことなく使って地球温暖化防止 ◎森と木を活かして地球温暖化を防ぐ ◎スギの花粉をなくす ◎林業機械の「むかし」と「いま」 ◎木から出る音 ◎水に浮く木、沈む木 ◎世界一重い木、軽い木 ◎生産物：木材を使う ◎木材から新素材を作る ◎木材からバイオエタノールを作る ◎いろいろな木質材料 ◎木材で大きな建物をつくる</p>

#### 科学館2階（「東北の桜」写真展）

種 類	内 容
展 示 写 真	<p>◎三春の滝桜 ◎上ノ台の桜 ◎松島 ◎白石川堤 ◎米沢城</p> <p>◎釜の越の桜 ◎小町堂 ◎角館武家屋敷 ◎小岩井農場の一本桜</p> <p>◎龍谷寺の盛岡枝垂 ◎鯛の岩 ◎弘前城</p>

#### 野外展示の概要

種 類	内 容
こんちゅうスポット	38ページ参照
ムササビスポット	39ページ参照
サクラ表示板	40ページ参照
私はだれでしょう？	第2樹木園内に10箇所の解説板

## 野外展示：こんちゅうスポット

多摩森林科学園の野外には、「私はだれでしょう」という樹木解説や、「ムササビ スポット」、「野鳥観察ポイント」などの生き物に関するフィールド案内施設が設けられています。2010年秋に、科学園で見られる昆虫や、それらと関係の深い事項に関する解説板「こんちゅうスポット」を樹木園とサクラ保存林に、50か所設置しました。

「こんちゅうスポット」以外の生き物に関する解説板も含めて、その内容を簡単に記入していただく自己学習システム「科学園の生き物を知ろう！」の記入用紙を、森の科学館と受付舎に用意してあります。個人や少人数グループだけでなく、学校の授業や夏休みの宿題等にも積極的にご利用いただければ、生き物に対する理解をより深めていただけるものと期待しています。

こんちゅうスポット内容抜粋

1. 科学園の季節のチョウ（月替わり） / 5. イスノキの葉の虫こぶ / 11. 科学園のトンボ / 20. 樹のアナを利用するハチ（借坑性ハチ）の巣 / 28. スギ・ヒノキの害虫 / 42. 科学園の外来昆虫 / 44. 科学園から見つかった新種



(井上大成)

## 野外展示：ムササビスポット

2009年5月、第2樹木園を中心に約20か所のムササビスポットを設置しました（写真1）。また、森の科学館にムササビコーナーを設け、ムササビ特有の食痕や巣材などの実物、巣箱内での子育て映像などを展示しました。2009年7月にリーフレット「科学園の森にはムササビがすんでいます」を作成し、希望者に配布しています（写真2）。リーフレットを持って、樹木園のムササビスポットを散策することで、夜行性のムササビの生態を楽しんで学ぶことができます。



写真1



写真2

(林 典子)

野外展示：サクラ表示板の改訂と桜巡りマップ

2012年2月、サクラ保存林において約150か所のサクラ表示板の改訂を行いました(図1)。これまではサクラの栽培品種名(例えば「御衣黄」「楊貴妃」のような名称)のみが表示されていましたが、それでは学術的価値がほとんどなく、正確な遺伝資源としての管理を考えると、いつ、どこから、どのような名前で導入され、分類学上の種類、および栽培品種名が何であるか、という詳しい情報が必要です。したがって、このような考えに基づいた詳細な情報を記載した表示板を今回設置しました(図2)。今回の表示板はまだ全ての栽培品種には設置されておらず、また、素材は従来の看板の上にラミネートしたものを貼り付けた簡易なものであるため(図1)、将来は全ての栽培品種を対象にしてしっかりした素材の看板に取り替える必要があります。さらに、2012年春の企画に合わせて、「桜めぐりマップ、サクラ保存林で見る東北・北関東の桜」を作成し、園内の散策に役立てました(図3)。



図1

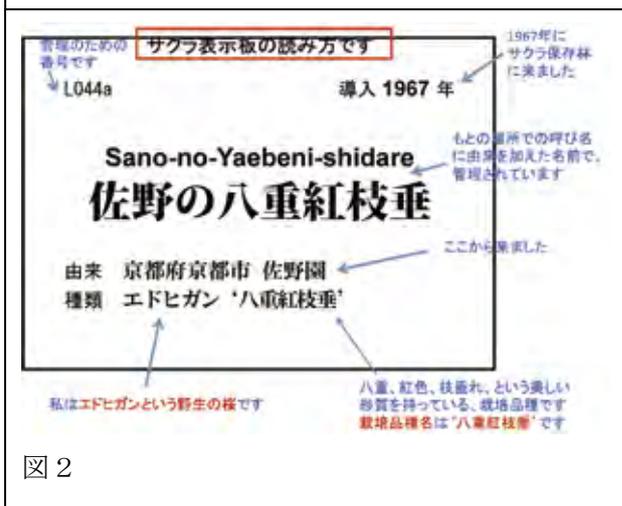


図2



図3

(勝木俊雄、岩本宏二郎)



独立行政法人・森林総合研究所

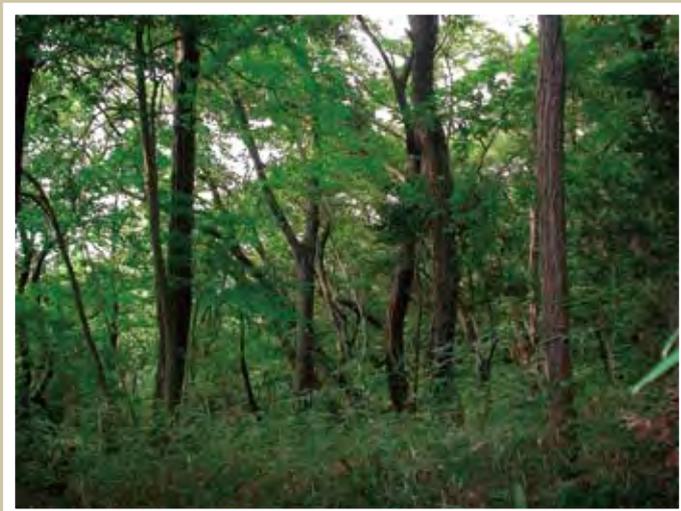
# 多摩森林科学園

Tama Forest Science Garden

## 要 覧



サクラの系統保存と活用



都市近郊林の管理・利用技術

## 園内の概要

多摩森林科学園は、大正10年2月、宮内省帝室林野管理局林業試験場として発足しました。

現在は、森林・林業・木材産業に関する我が国の中核研究機関である独立行政法人森林総合研究所の支所の一つとして、都市近郊林が有する多面的機能を発揮させるための管理・利用技術の開発や、動植物の多様性保全、サクラの系統保存と利用に関する研究などを行っています。

また、森林総合研究所が蓄積してきた研究成果を基に、広く国民の皆様に森林・林業・木材産業についての理解を深めていただくための普及・広報活動を行うとともに、園内の樹木園・試験林・サクラ保存林等を活用して、研究資料の提供や研鑽の場として大きな役割を果たしています。

### サクラ保存林・樹木園



約8haのサクラ保存林には、江戸時代以前から伝わる栽培品種や天然記念物に指定されたサクラのクローンなど、全国各地から集められた約1,600本のサクラが植栽されています。

また、約7haの樹木園には林業用の高木樹種を中心に500種、6,000本の樹木が植栽されています。センペルセコイヤやヤツガタケトウヒなど、他では見ることが少ない貴重な樹種もあります。

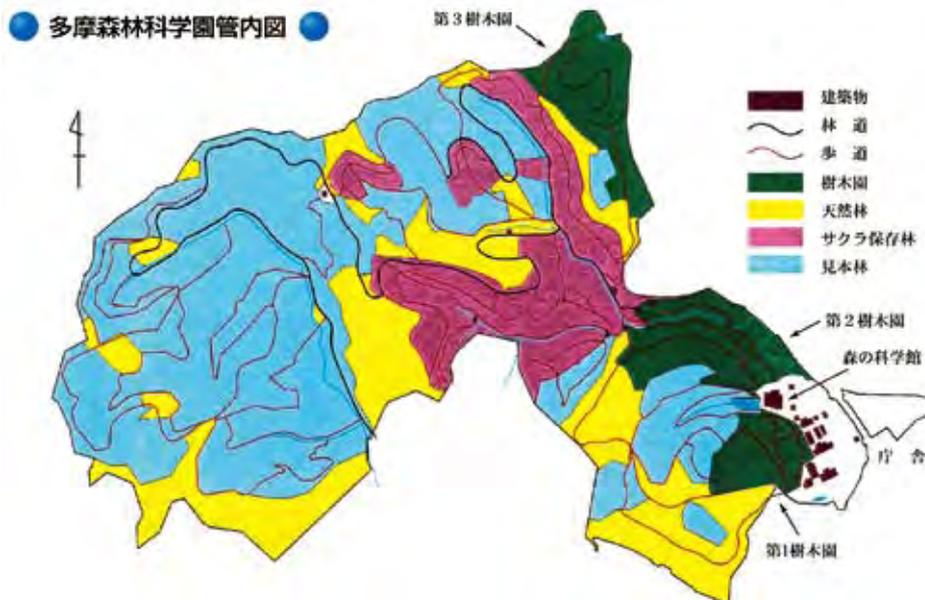
サクラ保存林、樹木園は年間を通して一般に公開され、特にサクラの開花時期には多くの人々に喜ばれています。

### 試験林(天然林、見本林)



約40haの試験林には天然林も残されており、モミヤスダジイ・ウラジロガンなど暖温带林の常緑樹が優占していますが、ハリギリやカスミザクラなど冷温带林の落葉樹も見られます。600種以上の植物が自生しており、東京近郊の森林としては自然度が高い状態が保たれています。

見本林はかつてはケヤキやテーダマツなど国内外の林業用樹種の植栽試験地として利用されてきましたが、現在では主に野生動植物を調査および保全する場として利用されています。



## 連光寺実験林・赤沼実験林

連光寺実験林(約5ha)は東京都多摩市に位置し、動植物相の調査による都市近郊林の機能の研究などを行うとともに、地域の小学生などの森林学習の場を提供しています。

赤沼実験林(約7ha)は埼玉県鳩山町に位置し、昆虫相調査、大気窒素・温熱環境・日射量・水分量等の調査、クルミの着生試験や、近隣の高校との連携による森林環境教育のプログラム開発などを行っています。また、一斉開花の研究用に実生から育成している貴重なモウソウチク林があります。

# 研究の概要

## チーム長(環境教育機能評価)

私たちの生活は、都市の中でも、森林から直接的・間接的な影響を受けて成り立っています。都市近郊林にすむ昆虫の生態を調べ、それを通じた生物多様性の保全や害虫の被害防除法を開発するための研究を行っています。さらに、それらの成果を、一般や学生にわかりやすく伝えるためのプログラム開発を行っています。



カシ・ナラ類の葉を食べるムラサキシジミの幼虫: 背中から出る蜜を求めてアリが集まる

## チーム長(都市域自然史)

都市に近接する森林は、人間生活の影響を受けながら、奥山とは異なる独特の生物相を維持してきました。都市域に残された森林がもつ、生物保全の場としての機能を明らかにするために、都市域に生息する哺乳類相が、生息環境の変化にともなってどのように変わってきているのかについて、調査を続けています。



都市近郊の低地林や丘陵林の代表種アナグマ

## 教育的資源研究グループ

都市近郊の落葉広葉樹二次林は、いわゆる里山林として、薪炭生産や農業利用のために維持・管理がなされてきましたが、燃料革命以降はその目的を失ったことから面積は減少し、残された林も放置されて以前とは異なる状態になっています。そこで、このような都市近郊林を健全に保全し、有効に活用するため、森林の分布や生物多様性の現状を明らかにし、管理法の違いによる植生変化などについて研究を進めています。



伝統的な手法で管理された里山では昔から人々に親しまれてきた植物が多い

森林科学における諸分野の研究の成果を森林環境教育に活用する方策の研究を進めています。生物多様性保全など森林に関する学習の場としての環境教育林を園内に設定し、学習プログラムや教材の開発をはじめ、学校などが森林環境教育活動を進めるために必要な様々な研究を行っています。



園内に設置した樹木学習教材「私はだれでしょう？」

多摩森林科学園のサクラ保存林は、我が国のサクラ栽培品種の最大コレクションであり、非常に貴重な遺伝資源です。しかしながら、江戸時代以前にも遡る伝統的な栽培品種は、長い年月の間に様々な取り違いもあったと思われ、多くの混乱を抱えています。そこで、精度の高いDNA解析や形態調査を駆使して、識別と系統解析を行い、多数の貴重な栽培品種の実態を明らかにするとともに、将来の活用に役立てる研究を進めています。



長い間異なる名前で呼ばれてきたがDNA解析で同一と確定した4品種の事例

## 沿革

- 大正10年 2月 宮内省帝室林野管理局林業試験場として設立。
- 昭和15年 1月 帝室林野局東京林業試験場と改称。
- 昭和22年 4月 林政統一により農林省に移管、林業試験場浅川支場と改称。
- 昭和32年 7月 林業試験場浅川実験林と改称。
- 昭和63年10月 森林総合研究所多摩森林科学園と改称。
- 平成13年 4月 独立行政法人森林総合研究所多摩森林科学園に移行。
- 平成18年10月 多摩試験地を連光寺実験林、赤沼試験地を赤沼実験林と改称。

## 組織



## 一般公開

平成4年4月から有料による通年公開を行っています。公開区域は、森の科学館、サクラ保存林、樹木園です。

### 森の科学館

サクラ品種の系統解析や開花情報、また都市近郊林の動植物の生態に関する研究成果などを展示して、森林に親しむための様々な情報を提供しています。また森林総合研究所の研究トピックスを紹介し、森林・林業への理解を深める場としています。

### 森林講座(年10回開催)

森の科学館で森林総合研究所の様々な研究をわかりやすく解説しています。

### 森林教室(年数回開催)

園内を散策しながら、自然を観察する教室です。

### 園内解説および学習スポット

森の科学館および園内の随時解説の実施、および学習スポット等の案内看板の整備を行っています。



森の科学館



学習スポット  
(昆虫)



学習スポット  
(ムササビ)

## 独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園

とどり

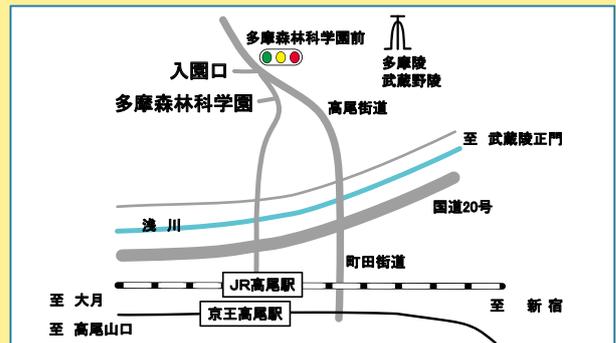
〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81

Tel:042-661-1121(代表)

Fax:042-661-5241(代表)

<http://www.ffpri-tmk.go.jp>

(見学問い合わせ/Tel:042-661-0200)



●JR高尾駅/京王高尾駅 北口から徒歩10分



# サクラ保存林



## 東北の桜に会いに行きましょう

### 保存林で見る東北の桜

散策しながら東北に由来するサクラを見ることができます。

### 東北の桜写真展

美しい東北の桜を紹介します。

2012年3月上旬～5月初旬開催

## 森林総合研究所多摩森林科学園のサクラ保存林では 様々な桜を3月から4月まで楽しむことができます

サクラの遺伝資源を保全するために、伝統的な栽培品種や全国の名木などから接ぎ木で増殖した約600系統、1,500本のサクラが植栽されています。他では目にすることが少ない栽培品種や名木のクローンを見ることができます。

## 復興支援の一助として、美しい桜に思いを馳せながら 東北地方を巡る桜旅を計画してはいかがでしょうか

昨年の春は未曾有の大震災により東日本地域が甚大な被害を受けました。長い冬を経て咲く春の桜は、各地で始まっている復興の象徴ともなるものです。多摩森林科学園では復興支援のひとつとして、「保存林で見る東北の桜」と「東北の桜写真展」を企画しました。

## 保存林で見る東北の桜

サクラ保存林で散策しながら見ることができる東北および北関東に由来するサクラについてその由来や種類などを紹介しています。園内では「桜巡りマップ」をお配りします。



弘前公園の桜



龍谷寺の盛岡枝垂



作並菊



蚕養神社の峰張桜

## 東北の桜写真展

寺澤秀治氏と中西一登氏の写真を通して美しい東北の桜の姿を紹介します。両氏が撮影している日本全国の桜の中でも選りすぐりの写真をお見せします。



向上庵の枝垂桜



輪王寺の金剛桜



「思川」

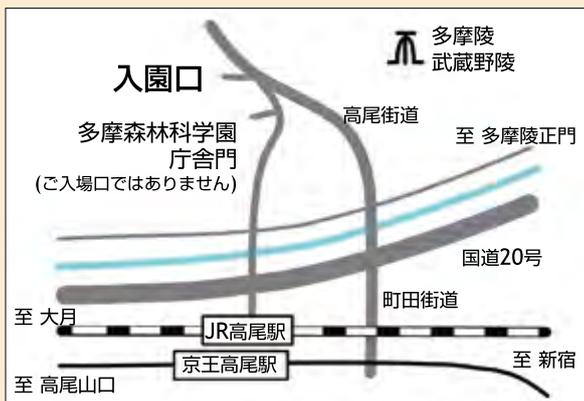


オオヤマザクラ

### ●入園案内

開園時間：午前9時30分～午後3時30分(午後4時閉園)  
(4月は午前9時開園)

休園日：毎週月曜日(月曜が祝日の場合その翌日)  
(3・4月は無休)



駐車場はありませんので電車と徒歩でおいでください。

### ●入園料

4月は 大人400円、子供150円  
他の月は大人300円、子供 50円

### ●最寄駅

JR中央線高尾駅／京王線高尾駅  
北口から徒歩10分

※園内は軽いハイキングの服装が  
おすすめです。

### お問い合わせ

独立行政法人森林総合研究所  
多摩森林科学園

TEL：042-661-0200  
(お客様専用)

<http://ffpri-tmk.affrc.go.jp>

## はじめに

多摩森林科学園のサクラ保存林には、伝統的な栽培品種および各地の名木などのクローンが約600ライン収集され、総数約1500本のサクラが植栽されています。このパンフレットでは、それらのうち東北および北関東に由来するサクラに焦点をあてて紹介しています。2011年3月の東日本大震災では大きな被害を受けましたが、各地で復興への歩みが始まっています。美しい桜に思いを馳せて、復興の一助として東北地方へ春の桜旅を計画してみられてはいかがでしょうか。

多摩森林科学園長  
吉丸 博志

## 多摩森林科学園における

### サクラ保存の取り組み

科学園のサクラ保存林は、農林省の桜対策事業の一環として、公害や老化によって衰退するサクラを保存することを目的に1966年度に設置されました。以後、古くからの栽培品種や各地の名木などさまざまな桜が導入され、保存・研究が行われてきました。

桜の保存は、接木や挿し木といった方法で行われます。原木から芽や枝を採取し、他の木の根株に接いだり（接木）、枝から根を出させる（挿し木）ことで個体を増殖する方法で、原木と同じ遺伝子を持つ個体（クローン）の増殖を行います。サクラ保存林は、こうした接木で増殖したサクラを後世まで伝えることが目的です。したがって、どのような原木から増殖したのか、その由来がきわめて重要です。このパンフレットや保存林の表示板には、原木の名称などを反映した「導入名」を表示しています。なお、参考情報として、生物の基本単位である種名や栽培品種名、導入元などについても表示しています。

## 桜めぐりマップ

サクラ保存林で見る

## 東北・北関東の桜



奥州里桜



磐崎神社の大鹿桜



宝泉寺の枝垂桜(福島県)クローン株



独立行政法人 森林総合研究所  
多摩森林科学園

〒196-0022 東京都八王子市廿里町1833-81  
電話:042-661-0200

<http://www.ffpri-tmk.affrc.go.jp>

e-mail: [kouhotama@ffpri.affrc.go.jp](mailto:kouhotama@ffpri.affrc.go.jp)

製作：多摩森林科学園 岩本宏二郎  
勝木 俊雄

発行：2012年 3月 5日

# 解説

地図番号:①導入名②種名③栽培品種名(栽培品種として確立した名称がつけられているものは無記入)④導入元⑤その他文中の敬称は略させていただきます。

青1:①弘前桜②サトザクラ③'普賢象'④弘前公園 青森県弘前市⑤'普賢象'は室町時代からあるともいわれる栽培品種。弘前城では、江戸時代からサトザクラの植栽が行われていた。

若1:①奥州里桜②サトザクラ③'奥州里桜'④菊池政雄 岩手県盛岡市⑤市内とところどころに植栽されている。原敬記念館の「戴き桜」もこの栽培品種と考えられる。

若2:①水晶桜②サトザクラ③'塩釜'④国立遺伝学研究所 静岡県三島市⑤若手県盛岡市内の個人宅にあるものを1920年三好学が名づけたと伝えられる。

若3:①盛岡の枝垂大奥桜②オオシマザクラ×エドヒガン④若手県盛岡市⑤原木は今はない。'盛岡枝垂'の実生から生じたものと伝えられている。

若4:①本誓寺枝垂②オオシマザクラ×エドヒガン④本誓寺若手県盛岡市⑤市天然記念物。枝垂大奥桜とよく似ている。

若5:①龍谷寺の盛岡枝垂②オオシマザクラ×エドヒガン③'盛岡枝垂'④龍谷寺 若手県盛岡市⑤国天然記念物。'枝垂桜'と'染井吉野'が交雑したものと推定されている。

若6:①盛岡の石割桜②エドヒガン④若手県盛岡市⑤盛岡地方裁判所の前庭にある。花崗岩の隙間に生える奇異な姿から大正12年に天然記念物に指定された。

若7:①正法寺の袈裟掛けの桜②エドヒガン④若手県奥州市水沢区⑤南北朝時代、正法寺開山の折、無底良韶禪師が脱いだ袈裟を掛けたと伝えられるサクラ

秋1:①煙山の大山桜②サトザクラ④秋田県仙北郡美里町⑤秋田の園芸家 煙山薫朗により育成されたサクラ。オオヤマザクラとサトザクラが交雑したものと考えられる。

秋2:①単弁東匂②サトザクラ④秋田県仙北郡美里町⑤秋田の園芸家 煙山薫朗により育成されたサクラ。上記と同じくオオヤマザクラとサトザクラが交雑したものと考えられる。

山1:①八乙女種まき桜②エドヒガン④八乙女八幡宮 山形県西置賜郡白鷹町⑤天然記念物。樹齢約500年ともいわれる。白鷹町は7本の桜古木があることで知られる。

山2:①白鷹の薬師桜②エドヒガン④薬師堂 山形県西置賜郡白鷹町⑤県天然記念物。坂上田村麻呂が手植えしたとの伝説が残るエドヒガンの古木。

宮1:①昌学寺の不老桜②エドヒガン③'枝垂桜'④昌学寺 宮城県登米市石越町⑤市天然記念物。古くから地域のシンボルとして親しまれている。樹齢は400年ともいわれる。

宮2:①北浦山王の桜②エドヒガン④山王権現 宮城県登米市迫町⑤市天然記念物 根元周囲8mを超えるエドヒガンの古木。

宮3:①作並菊②サトザクラ③'泰山府君'④久保武茂 大阪府伊丹市⑤京都の桜守 佐野藤右衛門が昭和30年頃に宮城県仙台市青葉区作並で見つけ、増殖して広めたとされる。

宮4:①作並山桜②カスミザクラ④佐野園 京都府京都市⑤上記作並菊と同時期に佐野藤右衛門が見つけ、増殖して広めたとされる。

宮5:①鹽竈神社の鹽竈桜②サトザクラ③'塩釜'④若名東一 千葉県⑤国天然記念物。宮城県塩竈市の鹽竈(塩釜)神社に原木があった。江戸初期から知られ、古くから栽培されていた。

宮6:①仙台吉野②オオシマザクラ×エドヒガン③'仙台吉野'④船津金松 東京都足立区⑤仙台市の宮城県師範学校校庭にて坂庭清一郎が作出'八重紅枝垂'と'染井吉野'を交配したものの。

宮7:①八重紅枝垂②エドヒガン③'八重紅枝垂'④佐野園 京都府京都市⑤京都や仙台に多く植えられている。明治時代、仙台市長であった遠藤庸治が仙台市内に植えた。

福1:①茂庭桜②サクラ③'茂庭桜'④福島県福島市飯坂町茂庭⑤福島県福島市飯坂町茂庭にて今野礼三が発見。チヨウシザクラと'染井吉野'が交雑したものと推定されている。

福2:①大玉の馬場桜②エドヒガン④福島県安達郡大玉村⑤源義家がこの地を馬場としたという伝説がある。幹周囲7メートルを超える巨樹として国天然記念物に指定された。

福3:①宝泉寺の枝垂桜②エドヒガン③'枝垂桜'④宝泉寺 福島県双葉郡富岡町⑤町天然記念物。康和元年(1099年)宝泉寺開山の頃植えられたと伝えられている。

福4:①磐椅神社の大鹿桜②サトザクラ③'塩釜'④磐椅神社 福島県耶麻郡猪苗代町⑤町天然記念物。会津五桜のひとつとして知られる。

福5:①開成山の桜②オオシマザクラ×エドヒガン③'染井吉野'④福島県郡山市⑤明治初期の安積開拓の折に開成沼周辺に約4000本の桜が植えられたのがはじまり。

福6:①飯盛山の太夫桜②エドヒガン④福島県会津若松市⑤市天然記念物 斎宮太夫という遊女の斬殺と弟のあだ討ちの伝説が残る。

福7:①蚕養神社の峰張桜②エドヒガン④蚕養国神社 福島県会津若松市⑤市天然記念物。寛弘7年(1011)社殿造営の際植えられたともいわれ、御神木として祀られている。

茨1:①八房桜②サトザクラ③'八房桜'④安行見本園 埼玉県川口市⑤雨引山楽法寺(雨引観音 茨城県桜川市)にて三好学が名づけたと伝えられている。

茨2:①向上庵の枝垂桜②ヤマザクラ×エドヒガン④向上庵 茨城県土浦市小野⑤県天然記念物。栽培品種としての'枝垂桜'とは花の形態が異なる。

栃1:①輪王寺の金剛桜②サトザクラ④輪王寺 栃木県日光市⑤国天然記念物。輪王寺境内三仏堂前にある。現地では山桜とよばれるがサトザクラに分類される。

栃2:①望月桜②ヤマザクラ×エドヒガン④日光植物園 栃木県日光市⑤原木は栃木県今市市の丘陵地より日光植物園に移植された。

栃3:①花石桜②ニッコウザクラ(チヨウジザクラ×カスミザクラ)④日光植物園 栃木県日光市⑤ニッコウザクラのひとつ。

栃4:①雨情枝垂②エドヒガン③'雨情枝垂'④日本花の会 茨城県結城市⑤栃木県宇都宮市鶴田町の野口雨情邸に栽培されていると伝えられている。

栃5:①思川②マメザクラ×エドヒガン③'思川'④日本花の会 茨城県結城市⑤栃木県小山市の修道院に植えられていた十月桜の実生から久保田秀夫が育成した。

群1:①発知の彼岸桜②エドヒガン④群馬県沼田市発知町⑤県天然記念物。田園地帯を見渡す丘陵上にある。苗代作りの時期に開花することから発知の苗代桜とも呼ばれる。

群2:①桜森の彼岸桜②エドヒガン④津久田八幡宮 群馬県渋川市赤城町⑤県天然記念物。八幡宮境内はかつて花見の名所で「桜森」とよばれた。この桜は神社入口に残る老木。

群3:①金蔵寺の枝垂桜②エドヒガン④金蔵寺 群馬県渋川市⑤県天然記念物。里芋の種を植え付ける時期に咲くことから「いも種ザクラ」と呼ばれる。

野1:②オオヤマザクラ④浅川美験林 東京都八王子市⑤北海道・東北地方に広く分布しこの地方を代表する野生のサクラ

東北・北関東のサクラ

# 植栽箇所案内図

サクラ保存林



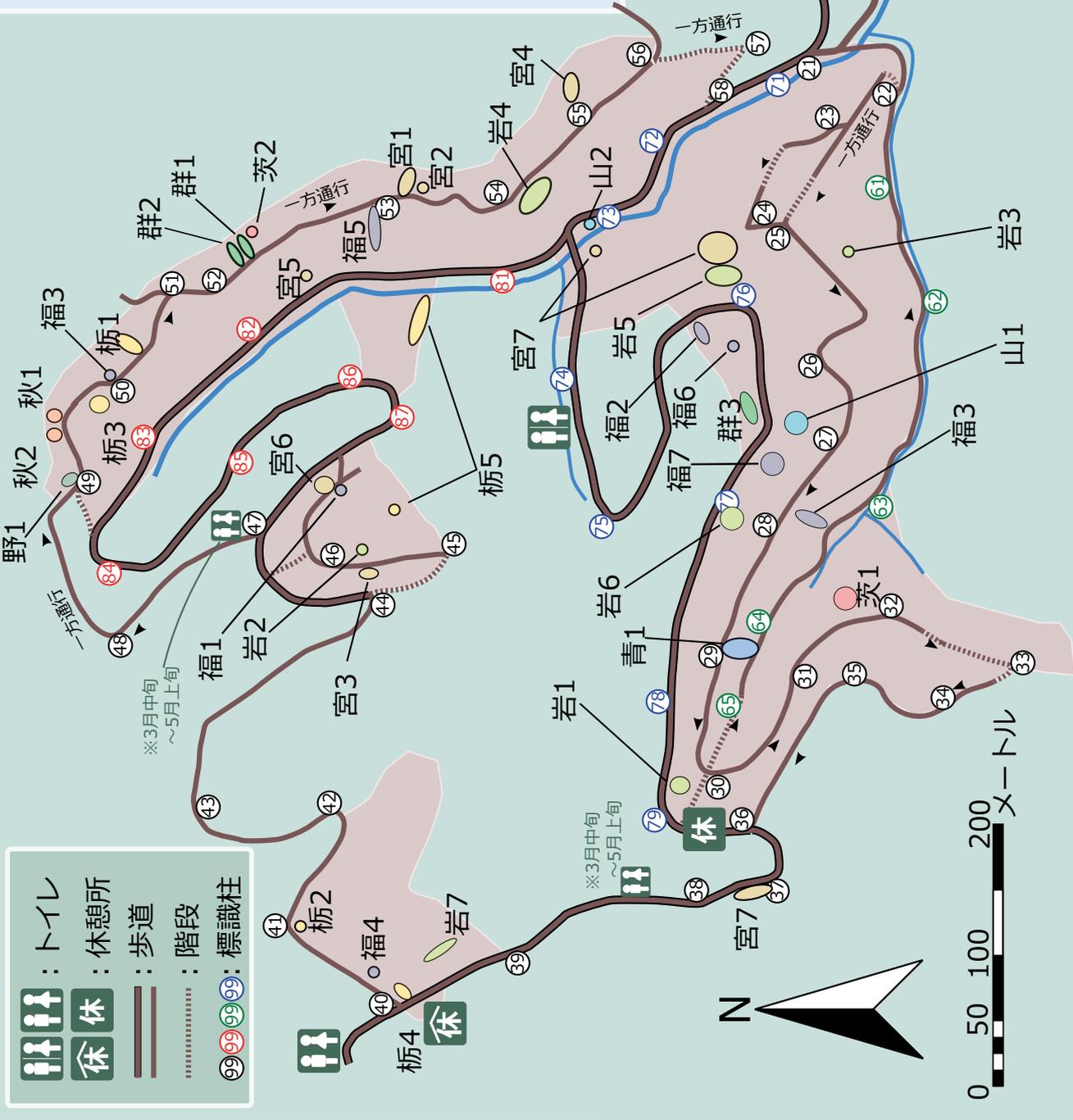
栃1 輪王寺の金剛桜



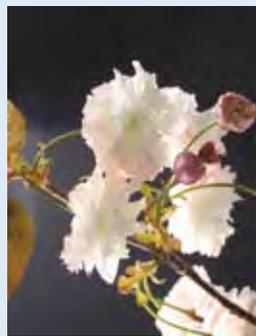
栃5 思川



野1 オオヤマザクラ



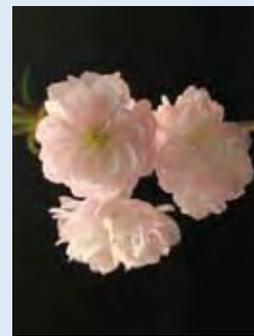
第2樹木園經由  
徒歩5分  
森の科学館



青1 弘前桜



岩5 龍谷寺の盛岡枝垂



宮3 作並菊



福7 蚕養神社の峰張桜

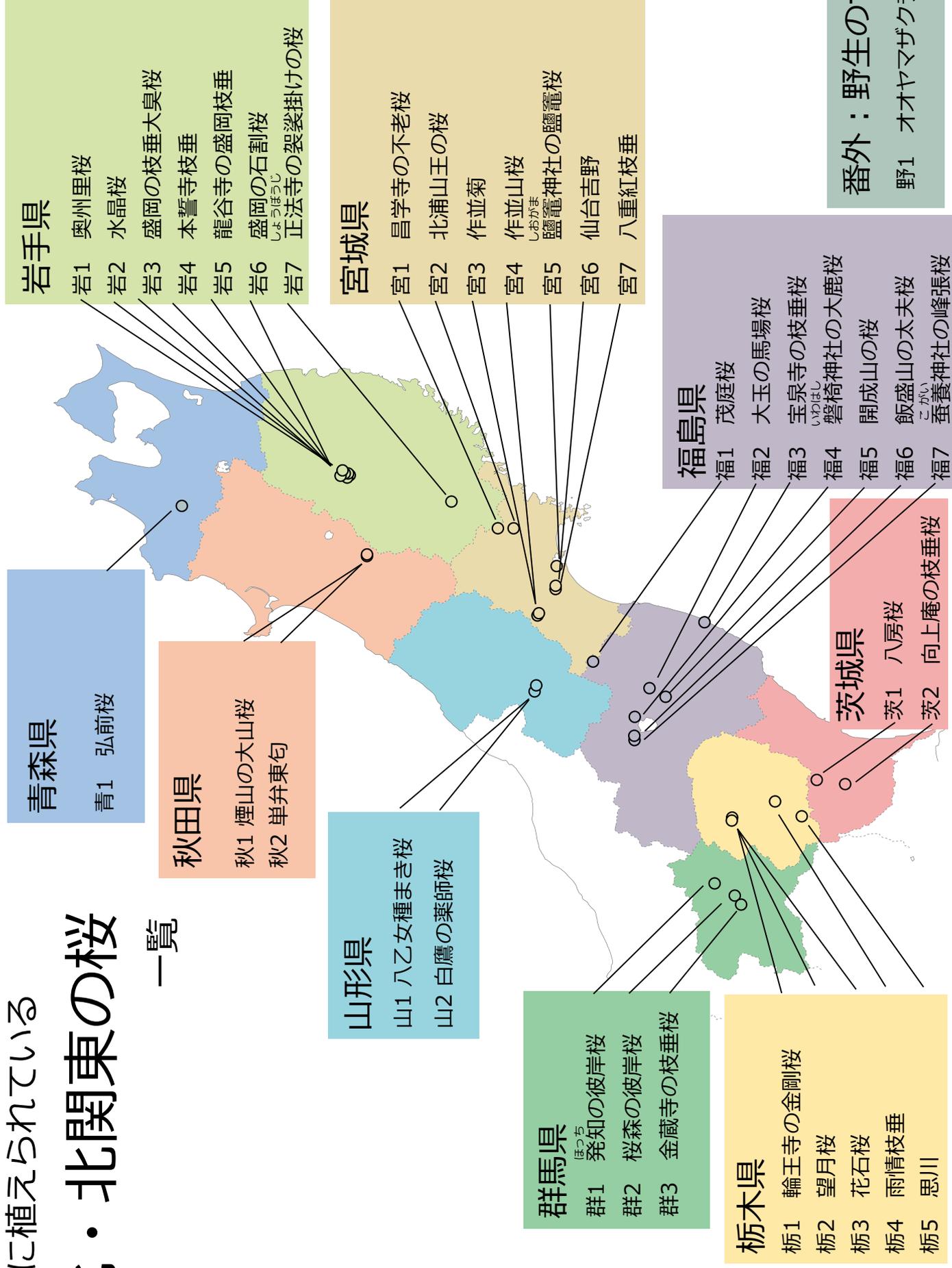


茨2 向上庵の枝垂桜

科学園に植えられている

# 東北・北関東の桜

一覧



## 整備計画等の実行状況

### 1. 基盤整備等

#### 1) 整備関係

##### a. 林内施設等整備

- ・試験林内の木橋架替・補修（4箇所）
- ・遠見通り（里桜園から四阿）に柵設置
- ・ベンチ及び柵補修
- ・サクラ保存林、樹木園内の支柱取替
- ・サクラ樹名板の整備

##### b. 災害復旧

- ・風倒木（9月）及び雪害木（1月）の処理及び倒木起こし
- ・サクラ保存林内(中通り)に土留工
- ・サクラ保存林内(見返通り)に土留工
- ・サクラ保存林内(遠見通り)に土留工
- ・里桜園から彼岸通りに土留工

##### c. 支障木伐採

- ・第三樹木園北側の住宅被陰木（コナラ・センペルセコイア）
- ・試験林南西側（西浅川町）民有林への倒木
- ・連光寺実験林の隣接公園歩道危険木（サクラ）
- ・研究本館西側危険木（ヒマラヤスギ2本、ダイオウショウ）

#### 2) 各作業関係

##### a. 刈 払

- ・サクラ保存林 2回実施(夏及び冬)
- ・歩 道 適宜実施
- ・林 道 //
- ・防 火 線 //
- ・樹 木 園 //

##### b. つる切り

- ・サクラ保存林
- ・樹 木 園

##### c. 病虫害防除

- ・コスカシバ（フェロモン剤取付）

##### d. 連光寺実験林の管理

- ・孟宗竹、四方竹、亀甲竹、真竹の竹林管理及びチップ化
- ・風倒木等の処理、歩道の刈払い

##### e. 赤沼実験林の管理

- ・孟宗竹の実生からの枯死実験区（6林班い小班）の調査
- ・孟宗竹（6林班ろ小班）の竹林管理
- ・枯損木等の処理

##### f. 無花粉スギ（爽春）5本植栽（4林班ろ小班）

## 2. その他の整備

### 1) 苗畑関係

- ・本所からヤクタネゴヨウ 2 本受入
- ・花の会からサクラ接ぎ木苗 7 2 本受入
- ・玉縄桜 3 本受入（玉縄桜をひろめる会）

### 2) 構内・苗畑等維持管理

- ・剪定、刈払いを必要の都度適宜実施

### 3) 連光寺及び赤沼実験林の請負管理（巡視・刈払い等）

## 参 考 資 料

### 1. 沿 革

- 1921年（大正10） 2月 宮内省帝室林野管理局林業試験場として発足する
- 1927年（昭和 2） 大正天皇崩御により多摩陵治定旧武蔵墓地から气象台を移転する
- 1940年（昭和15） 1月 皇室令により帝室林野局東京林業試験場となる
- 1945年（昭和20） 8月 大空襲により庁舎及び実験室の大部分を焼失する
- 1947年（昭和22） 4月 林政統一により農林省林業試験場浅川支場となる
- 1950年（昭和25） 4月 林産部門の本場集中に伴い浅川分室となる
- 1957年（昭和32） 7月 浅川実験林と改称する
- 1958年（昭和33） 12月 浅川実験林の内部組織は庶務係と樹木研究室になる
- 1966年（昭和41） 9月 サクラ保存林の造成を開始する
- 1967年（昭和42） 6月 浅川実験林主任は浅川実験林長と改称する  
庶務課と天敵微生物研究室が設置される
- 1978年（昭和53） 4月 農林省告示規定官署の支場となり会計係と業務室が設置される  
赤沼試験地と所属の樹芸研究室が浅川実験林へ編入される  
天敵微生物研究室が本場保護部に所属変更になる
- 1980年（昭和55） 4月 多摩試験地が開設される
- 1988年（昭和63） 10月 組織改編により森林総合研究所多摩森林科学園となる  
業務室が業務課に、樹芸研究室が森林生物研究室になる  
普及広報専門官が設置され赤沼試験地と多摩試験地が本所直轄となる
- 1989年（平成元） 5月 業務課に施設管理係が設置される
- 1990年（平成 2） 6月 業務課に研修展示係が設置される
- 1991年（平成 3） 4月 業務課に育林専門官が設置され「森の科学館」が開設される
- 1992年（平成 4） 4月 有料による通年一般公開を開始する
- 2001年（平成13） 4月 独立行政法人へ移行する  
育林専門官が業務係長となる  
チーム長が設置される  
樹木研究室及び森林生物研究室が教育的資源研究グループとなる  
多摩試験地が多摩森林科学園へ編入される
- 2006年（平成18） 4月 非特定独立行政法人へ移行する  
赤沼試験地が多摩森林科学園に編入される  
10月 多摩試験地を連光寺実験林、赤沼試験地を赤沼実験林に改称する

## 2. 職員の異動 (平成23年 4月 2日～平成24年 4月 1日まで)

(転入)

23.10. 1 吉丸 博志 園長←本所森林遺伝研究領域長

24. 4. 1 島田 和則 教育的資源研究グループ主任研究員←本所気象環境研究領域

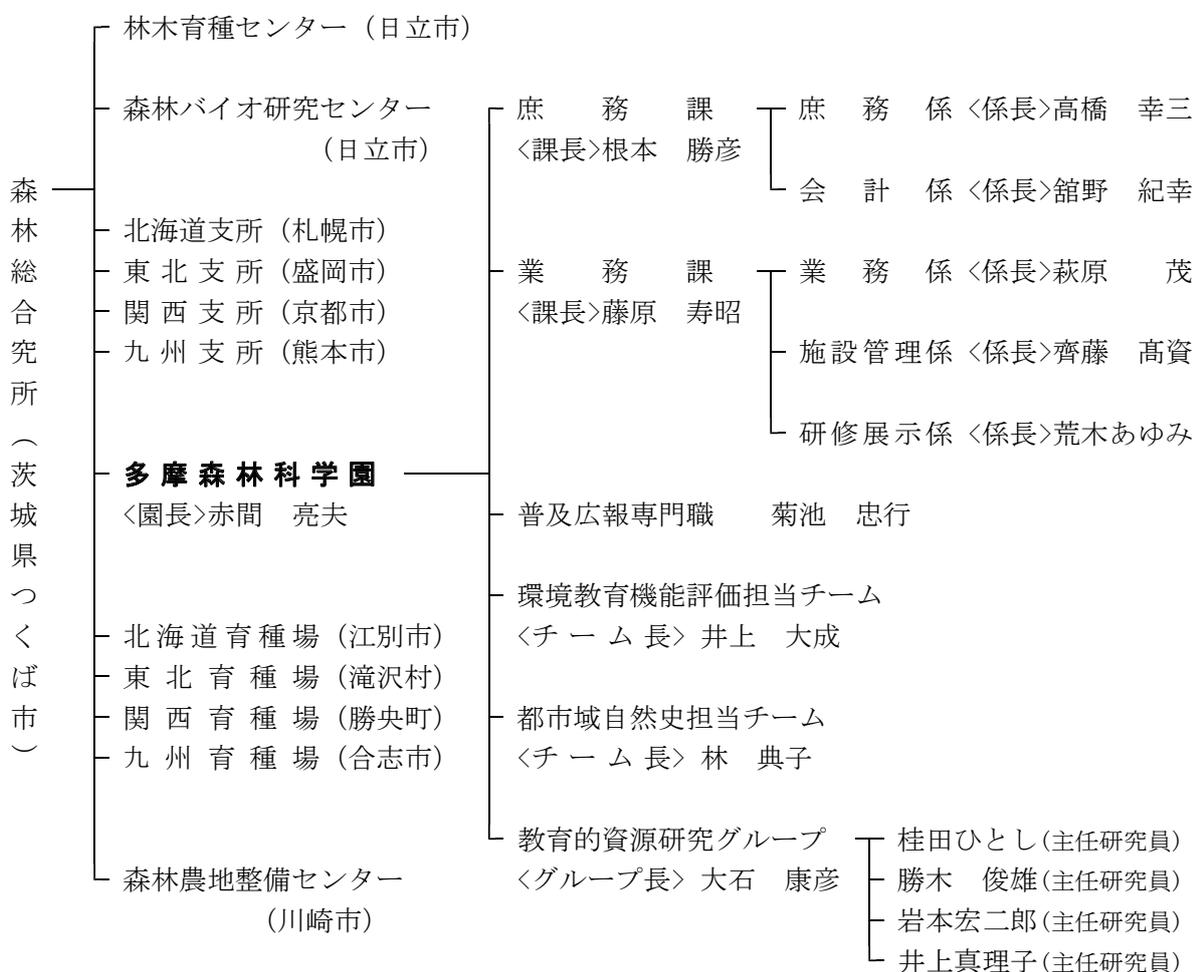
気象害・防災林研究室主任研究員

(転出)

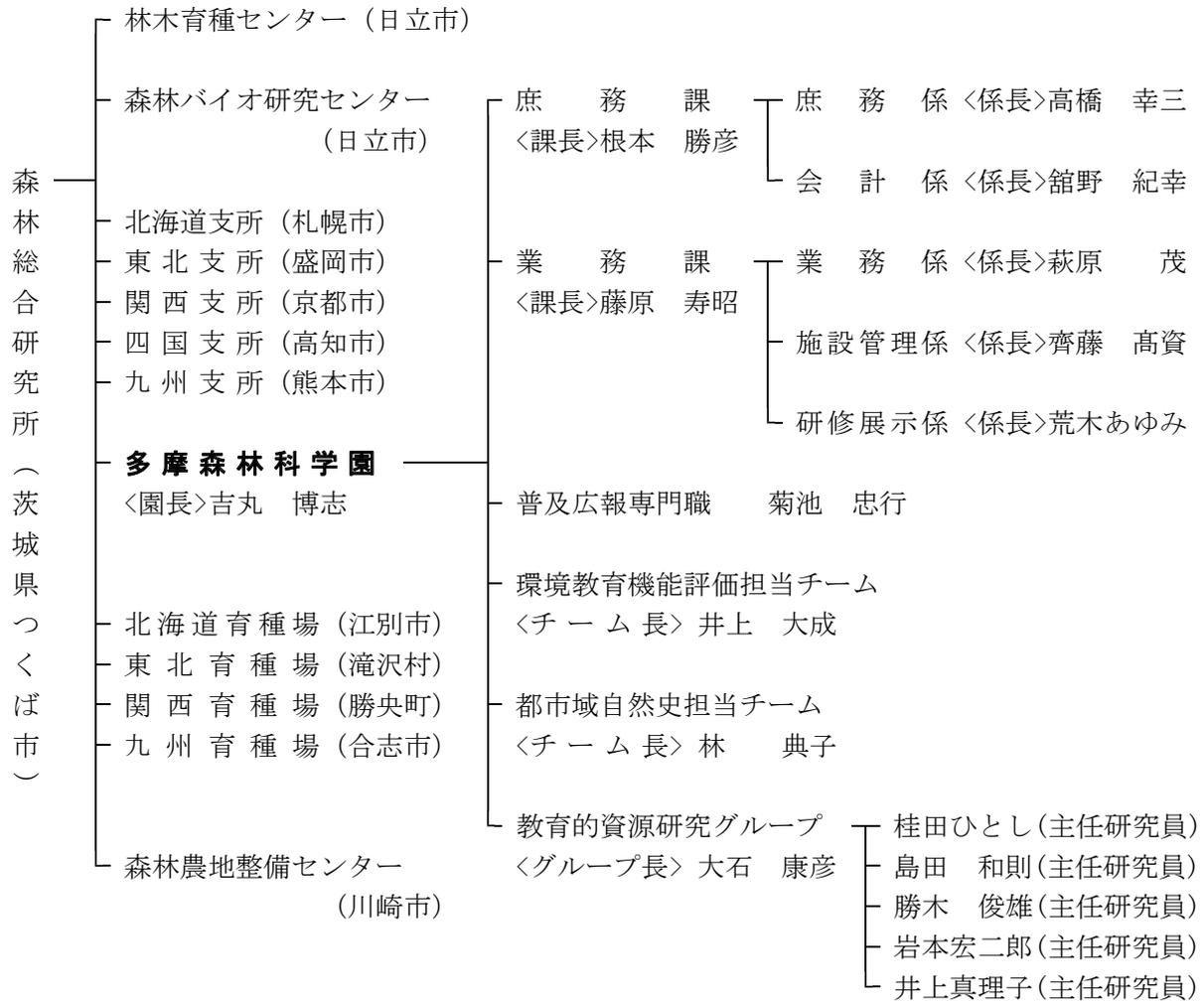
23.10. 1 赤間 亮夫 園長→本所企画部上席研究員

## 3. 組織及び職員

(平成23年 4月 1日現在)



(平成24年 4月 1日現在)





平成24年10月1日発行

多摩森林科学園23年度年報 第34号

平成24年版

編集発行 独立行政法人  
森林総合研究所多摩森林科学園  
東京都八王子市廿里町1833-81  
電話 八王子(042)661-1121

印刷所 株式会社 高尾印刷  
東京都八王子市東浅川町526-1  
電話 (042)661-1507(代)

転載・複製する場合は、多摩森林科学園の許可を得てください。